

ビジネスの街に文化の香り

KIMASSI

KANAZAWA

Vol.108
July

KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS 2010年7月 金沢問屋センターニュース
URL <http://www.kimassi.or.jp/>

第47回 通常総会開催

金沢美術工芸大学と街づくりに関する協定を締結

新入社員歓迎式、電話教室及び研修会を開催

第7期「金沢商人塾」開講

バトンエッセー

先進団地視察

うちのキラリンさん

わが社をPR

事務局だより



事務局だより

INFORMATION

3月

●3日 理事会

1. 総務委員会より

- (1) 問屋神社春季例祭について
- (2) 集団健康診断について
- (3) 4~12月の収支実績報告について
- (4) 運転資金特別融資について
- (5) 緊急貸出制度について

2. 組合運営委員会より

- (1) 町内一斉清掃について

3. 厚生委員会より

- (1) 研修事業の開催について

4. 事業戦略委員会より

- (1) 金沢美術工芸大学とのコラボレーションについて
- (2) ホームページの運営について
- (3) 組合ホームページのトップページリニューアルについて
- (4) 広報誌第107号の発行について

5. 開発プロジェクトチームより

- (1) 土地売買について
- (2) 土地の利用方法について
- (3) (協)青森総合卸センターの視察行程の変更と参

加メンバーについて

- (4) 空き店舗の企業情報誘致推進の費用について

6. 事務局より

- (1) 予算案の提出について
- (2) 金沢商人塾第6回例会の結果報告について
- (3) 経営の参考となる、著名人の講演CDの貸出について
- (4) 経営セーフティ共済について

●8日 労務管理講習会

4月

●2日 新入社員歓迎式

●5日 理事会

1. 総務委員会より

- (1) 事業所従業員数調査について
- (2) 新入社員歓迎式について
- (3) 平成22年3月31日現在の組合員数について
- (4) 中西産業(株)跡地の解体と舗装について
- (5) 出資金の一部返還について

2. 厚生委員会より

- (1) 労務管理講習会について
- (2) 新入社員行事の開催について

3. 事務局より

わが社をPR②

フイドニー(株)が展開する紙の専門店「紙処なごみ」

幸せの「手作り」をお手伝いします

結婚という二人の新しい出発の第1ページをオリジナルの招待状や席次表で飾りたいという人が増えています。ここ紙処なごみには招待状などを手作りする際に必要な素材や道具、ノウハウが揃っています。

参考になる作品例と和紙や洋紙、リボン、水引など行き届いた品揃え。店内の作業台で作成される方にはスタッフが相談に応じますし、ご希望があればデザインから試作品づくりまで一緒に考えていきます。主役はあくまでもお客様。描いていたイメージ以上の仕上がりが、手作りの満足感を味わっていただくために、私達も楽しみながらお手伝いをしています。

一緒に考え作り上げる喜び

二俣和紙をはじめとする全国の和紙、洋紙の小売店としてオープンしたのが4年前。お客様の要望で手作りプライダルのお手伝いを始めてから約3年になります。

お客様の「これほしい、あれほしい」を叶えるために一緒に考え、ご満足いただけることがスタッフの喜びです。今では口コミで、県外からもご来店いただけるようになり感謝しています。プライダル以外にも、お気軽にご相談ください。

紙処 なごみ URL <http://kamidokoronagomi.jp/>
スタッフブログで作品例を紹介しています。ぜひご覧ください。

「わが社をPR」に掲載ご希望の方は事務局までお問い合わせください

土曜、日曜にはカップルでご来店いただきスタッフと相談しながら手作りを楽しまれています。



ひとロケモ



感謝の気持ちが伝わる仕上がり。

店舗2階は手作り教室やギャラリー(無料)として使用。7月にはボランティア団体から相談を受けて、金沢在住の外国の方々と和紙を使ったタペストリー作りをしました。

- (1) 北陸銀行金沢問屋町支店の新店舗建築について
- (2) ローソンの新店舗建築について
- (3) 問屋町不動産物件情報の配布について

●7日 新入社員電話教室

●8日 町内一斉清掃

●8日~9日 新入社員研修会

●23日~25日 (協)青森総合卸センター、(協)仙台卸センター視察

5月

●10日 理事会

1. 総務委員会より

- (1) 第47回通常総会について

2. 厚生委員会より

- (1) 平成22年度福利厚生事業計画(案)について

3. 組合運営委員会より

- (1) 不燃物有料回収について
- (2) 会館の修繕について

4. 事業戦略委員会より

- (1) ホームページのリニューアルについて
- (2) 交番跡地の整備事業について

5. 開発プロジェクトチームより

- (1) しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2010」の参加補助について

6. 事務局より

- (1) ローソンのオープン日程の変更について
- (2) (株)タムラの高度化資金繰りについて
- (3) 金沢美術工芸大学と当組合との問屋町まちづくり協定の締結について
- (4) (協)青森総合卸センターへの視察研修とアンケートについて
- (5) 「キャリア体験」(職場体験)受け入れのお願い

●19日 不燃物有料回収

編集後記

「継続は力なり」。誰もが一度は聞いたことがある格言だと思います。実はこれは何事に対しても通じることなのだ、最近になり、私は実感しております。やり続けるから成果となる、やり続けるからその存在価値が見えてくる。成果に結びつくまでとことん地道にコツコツやり続けられるのだと思います。

さて、理由はともかく8か月間という短い期間で日本のリーダーが交代を余儀なくされました。任期は4年というのに、4年の間に4人のリーダーが存在しました。継続も何もあつたもんじゃない...と思うのは私だけでしょうか。また、継続し、その成果に期待をし、心待ちにしていることがあるのなら、それをやり続けている者同様に、心待ちにしている者もじっと見守り続けるという継続が必要ではないのかな~と感じてしまいました。

次に期待します!! そして自分自身は日々の仕事をコツコツと当たり前に一生懸命努め続けてみます。(M.H)

通常総会開催

当組合の第47回通常総会は5月28日午後5時30分より、ANAクラウンプラザホテル金沢3階鳳の間で開催され、全議案が原案通り承認された。



承認の件

〔第3号議案〕平成22年度事業計画(案)承認の件

〔第4号議案〕平成22年度収支予算(案)並びに賦課金の賦課徴収方法承認の件

〔第5号議案〕平成22年度組合借入金金の最高限度額及び1組合員に対する貸出限度額承認の件

〔第6号議案〕理事及び監事報酬の件

以上を上げ、すべて全員異議なく承認。議長は議案全部を終了した旨を告げ、閉会の挨拶を述べて午後6時38分閉会した。

「きれいな街づくり」の設計と事業化を推進

日本経済は、米国のサブプライム問題に端を発した不況から緩やかな回復基調にあるといわれていますが、卸売業界にその兆候はなかなか見えてきません。厳しい経済環境下において、当組合では「組合員各社の繁栄と社会のために貢献できる組合を目指す」という長期ビジョンを掲げ、組合員の仕事に組合としてどのようにお役に立てるかを基本に推進してまいりました。

- 〔ソフト面〕
- ①入づくりでは第6期金沢商人塾ほか、各種研修事業を実施
 - ②出資金範囲内での緊急融資などの実施
 - ③空き店舗の解消と企業誘致のため「問屋町不動産物件情報」を作成し配布
 - ④組合に新規加入する際の負担軽減のため、出資金額を

- ⑤昭和58年6月以降組合に加入された方へ出資金の無償増資分を返還
- ※加入の際、土地の面積に応じて納めてもらう出資金は、組合設立以降、2度の有償増資と3度の無償増資を経て現在の額に至っている。最後の無償増資を行った58年以降加入された組合員、更には他の土地を購入された組合員からは有償増資分と無償増資分を合算したものを出資金としてお預かりしており、不公平は正の観点から理事会で返還を決定。
- 【ハード面】
- ①空き店舗の解消と従業員の利便性向上のため、空き店舗を買い取り駐車場として活用
 - ②県道に面した第11駐車場の有効利用のため、市に依頼して3丁目公園を購入し第16駐車場を整備。今後、終末処理場跡地は児童公園に再整備される
 - ③第11駐車場の半分を北陸銀行へ売却。残り半分を(株)ローソンへ賃貸し、地代収入の向上を図る
 - ④石織(株)跡地を組合会館の臨時駐車場として整備。臨時駐車場として利用してきた終末処理場を金沢市へ売却したための措置



組合員同士が親睦を深めたひととき。

抽選会で会場は盛り上がった。

いずれの事業も組合員各位のご理解とご協力が大切です。皆様のご意見をお聞きしながら積極的に推進したいと考えておりますので、よろしくお申し込み申し上げます。

懇親会

総会終了後、会場を移して懇親会を行った。富木理事長の挨拶に続き、今年10月に店舗を移転オープンする坂本北陸銀行金沢問屋町支店長より乾杯の発声をいただいた。懇親会は立食形式で行い、各自親睦を深めた。また、豪華景品を準備した抽選会で会場はさらに盛り上がった。最後は小西北國銀行問屋町支店長より中締めでお開きとなった。

金沢美術工芸大学と街づくりに関する協定を締結

ビジネスの街に「文化の香り」を創出

全体構想の決定は年々

5月18日(火)に当組合と公立学校法人金沢美術工芸大学は、金沢流通会館において「金沢市問屋町の街づくりに関する協定書」を締結した。

協定締結調印式には、組合から富木理事長、小川副理事長、丸岡副理事長、高桑副理事長、柳瀬常務理事が、金沢美大からは学長・理事長の久世建二氏、社会連携担当理事の川本敦久氏、事務局長の大路孝之氏が出席した。最初に協定書の内容を出席者に説明した後、両理事長から挨拶があり、この協

定にかける思いなどを述べた。続いて調印を行い、協定書を取り交わした後に両理事長は固い握手を交わし、これからの問屋町の街づくりに向けて決意を確かめ合った。この協定は、全国中小企業団体中央会の平成21年度卸商業団地機能向上支援事業に認可され2年間に亘り実施している「町並み・景観の整備」、特に組合中期ビジョン「きれいな街づくり」の具現化を進めていくうえで、当組合から金沢美術工芸大学に依頼をし実現に至ったものである。問屋町に文化的な香りを創出することを目標として、今後、委員会において協議

を重ね、年内にも全体構想をまとめ、早ければ年明けから実行に移す予定である。

具体的な街づくりの内容についてはこれから検討していく予定であるが、この協定を象徴する事業のひとつとして、団地の表玄関にあたる交番跡地を展示空間にするためのコンペティションを実施、また今後10年間に亘って学生の卒業制作を買い取り作品を展示することを予定しているほか、空き店舗をアトリエ、ギャラリーとして開放することなどについても検討していく。



調印の後、固い握手を交わす富木理事長(左)と金沢美大久世理事長。

協定にかける思いを述べる富木理事長。



協定書(要約)まえがき

金沢は加賀百万石の城下町の伝統を継承した伝統工芸が盛んなところであり、その流通において問屋町の果たしてきた役割も大きく、問屋町が金沢の歴史の一端を担ってきたとも言える。4年後には北陸新幹線の金沢開業があり、金沢は都市間競争に打ち勝つために魅力ある街づくりが求められているが、それは中心市街地だけでなく問屋町にも切実に求められている。

金沢美術工芸大学は創立以来60年を超える長い歴史をもち、金沢の歴史と風土に培われ育まれて成長してきた伝統芸術の継承発展を担い、さらに広く美術、工芸、デザイン、芸術学の各分野での活動を通して社会、世界に貢献できる人材の育成を使命としている。近年は、アートを切り口に街を活性化させる事業を推進するなど、地域社会への貢献にも積極的に取り組んでいる。

「アート」をひとつのキーワードに両者が協力し、これからの時代にふさわしい新しい街づくりを推進していく。

金沢美術工芸大学と協同組合金沢問屋センターは、

歴史ある「問屋町」の今後の魅力と

活力のある街づくり推進にあたり、

ビジネスの街という要素に加え、

「文化的香り」を創出することを目指して、

以下の具体的課題について共同して取り組むものである。

- (1)「アート」をキーワードにした街づくりの構想の策定
- (2)上記精神に基づいた協同組合金沢問屋センター所有の遊休地並びに建物の有効活用方法の策定
- (3)これらの具体的推進に関するプログラムの策定

組合HPのトップページをリニューアル

ホームページのトップページを見やすくわかりやすいものにリニューアルしました。トップページ以外のページは順次変更していきます。



<http://www.kimassi.or.jp/>

- 来賓出席者
- 水岡 弘行 石川県商工労働部次長
 - 桶川 秀志 金沢市産業局商業振興課長
 - 奈良 清則 金沢商工会議所総務部長
 - 五嶋耕太郎 石川県中小企業団体中央会会長
 - 沖 俊男 商工組合中央金庫 金沢支店次長
 - 小西 利之 北國銀行問屋町支店長
 - 坂本 嘉和 北陸銀行金沢問屋町支店長
 - 井上 正弘 金沢信用金庫問屋町支店長代理

ようこそ 新入社員!

新入社員歓迎式、電話教室及び研修会を開催

4月2日(金) 金沢流通会館研修室において、今年組合員企業に入社した14社51名(男性40名、女性11名)の新入社員歓迎式が行われた。

最初に富木理事長より歓迎の挨拶があった後、石川県立金沢商業高等学校久下恭功校長から祝辞をもらった。続いて先輩社員(株)キヨー・エフ藤田大吾さんから激励の言葉が贈られ、新入社員を代表して大宮(株)の栗田健次さんが社業への貢献を誓った。

歓迎式に続いて開催された記念講演では、北陸人材開発センター所長の旗正治氏より「在りて人間になるな、(株)キヨー・エフ藤田大吾さんから激励の言葉が贈られ、新入社員を代表して大宮(株)の栗田健次さんが社業への貢献を誓った。

歓迎式に続いて開催された記念講演では、北陸人材開発センター所長の旗正治氏より「在りて人間になるな、(株)キヨー・エフ藤田大吾さんから激励の言葉が贈られ、新入社員を代表して大宮(株)の栗田健次さんが社業への貢献を誓った。

現在では競争激化の時代であるが、「競争激化」選抜時代の時代であり、品質が良く、コストが安いというのは当たり前だ。「選抜」される本質は無形価値(形のないサービス)という、物に知恵の光を与える「気働き人財力」にあり、これが企業の命運を左右する最重要課題となってきたと、自力で歩みを革新し、実行する人間



となるための心構えなどを説明された。また4月7日(水)の電話教室には6社21名が、8日(木)・9日(金)の研修会には9社25名が参加し、企業人としての基本的なマナーやコミュニケーションの重要性などについて学んだ。

新入社員を代表して社業への貢献を誓う栗田健次さん。

2日間にわたって研修会が開催された。

第7期 「金沢商人塾」開講

今年で7年目となる「金沢商人塾」のスケジュールが決まり、7月24日の開講式と第1回目の講義に向けて現在準備を進めています。

講師に、映画『おくりびと』の原作『納棺夫日記』の著者・青木新門氏を迎えるほか、講師の一龍斎貞花氏、第1期から講師をお願いしている大塚徹氏など多彩な講師陣で今年度も進めていきます。随時、誌面で講義の内容などをお伝えしていきます。

今期のスケジュール

- 第1回 7月24日(土) 名古屋大原学園 学園長 杉山 孝男氏
テーマ/中国古典からみた人間学と経営学
- 第2回 9月18日(土) 経済評論家 千葉商科大学 教授 西村 晃氏
テーマ/こんな時代に生き残る企業経営
- 第3回 10月16日(土)・17日(日) ㈱日本ヒューマン経営研究社 社長 大塚 徹氏
テーマ/沈まぬ人生 沈まぬ経営
- 第4回 11月27日(土) 講師 講談協会常任理事 一龍斎 貞花氏
テーマ/上に立つ人の条件
～戦国武将・歴史に学ぶ知恵～
- 第5回 12月25日(土) ㈱商工中金経済研究所 所長 坂井 茂樹氏
テーマ/変化はチャンス
- 第6回 平成23年2月26日(土) 「納棺夫日記」著者 青木 新門氏
テーマ/いのちのバトンタッチ
～映画「おくりびと」によせて～

先進回地視察

明確なビジョン、危機意識の共有

このたび卸商業団地機能向上支援事業(団地再整備)の事業化調査の一環として先進回地視察を実施した。組合の将来ビジョンの中期テーマ「きれいな街づくり」を執行計画に移すための意識共有とノウハウ習得が主目的である。

(協)青森総合卸センター

朝より飛行機を乗り継いで青森空港に到着したのはお昼前。卸センターまではバスにて約20分まで到着し、最初に情報交換しながらの会食の場を持った。というも卸センター内に組合員が経営するフレンチレストランがあり、店舗視察も兼ねた昼食が可能となったためである。そのお店「ドウ・クロツシユ」を経営するのは、婚礼衣装業の(株)きものセンターの社長である足立さん。足立社長は同問屋町経営同友会(青年部にあたる)の会長も務めておられた。空き地の有効活用に着目して関係する「晴れの日の会食の場」を提供したいと考えて出店され、厳しい環境下でも工夫された運営を行っており、活性化の一例を勉強できた。午後に入りよいよ卸センターの

泰和ゴム興業株式会社 藤本 博司

イド発表を中心に進められた。同センターの景観事業の大きな契機となったのは、高速道路整備により平成15年に青森中央ICがほぼ隣接してできたことによる。アクセスが良くなった上に、C1活動においても高速道路標識をモチーフとしたデザイン(青/緑カラー)が採用されており大変目を引いた。案内板のみならず組合員店舗のシャッター・営業車ステッカーなどが統一されている。このほか、シンボルタワーやモニタメントの設置、緑化・植栽など。スタートから5年間で41百万円の費用をかけているが、トピアリー(動物などをかたどった植木や刈り込み)やイルミネーションは業者委託せず職員の手によるとのこと。同組合の基本的な考え方は「人」「モノ」「情報」が集まる物流拠点としての活性化を図りながら地域住民から親しまれる景観形成という趣旨でまちづくり計画に謳われている。



に有効な活動が行われていたことをこのデザインを目にする。

問屋町会館に入り、先方のプレゼンと当方で事前作成した質問事項への説明を受けた。

元木理事 長岡席のものと藤本専務理事のストラ

あるという危機意識が大きな原動力となっている様に感じた。

(協)仙台卸商センター



3年前に青年部会として訪問させて頂いたが、今回は年に2回行われる「卸町ふれあい市」を中心視察を行った。奥田理事長をはじめ事務局の皆様に案内をして頂いた。卸町会館には従来から貸し音楽スタジオ(通称MOX)がありユニークな共同事業を行っているが、今年の3月より創作活動を支援するための貸しオフィススペース(通称TRUNK)をオープンした。老朽化した宿泊施設部分を改装したものが、アイデアと実行の先進性に驚かされた。この「ふれあい市」は、イベントも含む物販(バザール)だが毎回6万人の集客があり1億円を超える売上を2日間で計上する。イベントは専用の倉庫(これも古いもので活用)を使った市民参加型のもので、駐車場待ちの列が出来るほどの活況を呈している。

今回の視察を通じて重要に感じたことは、①ビジョンの中の明確な目的意識 ②組合員へのサービス向上への意識 ③危機意識の共有と実行の迅速性である。当組合でも緊張感をさらに強く持って今後の事業に活かしていき、将来に向け厳しい現況を打破できるのではないだろうか。

バトンエッセー vol.91

ロマン感じる「環日本海時代」



㈱五井建築設計研究所 代表取締役社長 西川 英治

皆さんは日本地図を大陸側から見たことがあるでしょうか? (ちよほど135度ほど反時計回りに廻し配置した地図です)。当然のことながら大陸から見ると日本海地域は表側になるわけで、この地図はそのことを明確に示してくれれます。戦後アメリカとの交易を復興の最重要政策と位置づけた国策で日本海側は「裏日本」と呼ばれ、長い間蚊帳の外におかれてきたと思えます。寺島実郎さんによると、戦前には「裏日本」という考えはなかったそうです。確かに江戸時代においても、日本海側は北前船航路で交易が盛んに行われ繁栄していました。今アメリカの凋落が顕著になる一方、中国、韓国をはじめアジア地域の躍進には目を見張るものがあります。再び日本海側が注目を集める時代になってきたことは確かです。あらゆる分野で「環日本海時代」への期待が高まっています。

こうした背景があつて、私が関係する建築設計団体が中国大連との交流が始まりました。もともと大連は満州時代に日本が統治していた地域で、今もその名残を残しており対口 旧も良好な土地柄です。

皆さんは日本地図を大陸側から見たことがあるでしょうか? (ちよほど135度ほど反時計回りに廻し配置した地図です)。当然のことながら大陸から見ると日本海地域は表側になるわけで、この地図はそのことを明確に示してくれれます。戦後アメリカとの交易を復興の最重要政策と位置づけた国策で日本海側は「裏日本」と呼ばれ、長い間蚊帳の外におかれてきたと思えます。寺島実郎さんによると、戦前には「裏日本」という考えはなかったそうです。確かに江戸時代においても、日本海側は北前船航路で交易が盛んに行われ繁栄していました。今アメリカの凋落が顕著になる一方、中国、韓国をはじめアジア地域の躍進には目を見張るものがあります。再び日本海側が注目を集める時代になってきたことは確かです。あらゆる分野で「環日本海時代」への期待が高まっています。

一昨年の訪問では、私たちのメンバーである水野 一郎金沢工業大学教授が幼年時代に過ごしたアパートが残っていて、しかもそこに現在住んでいる方が日本に留学経験があり、通訳を買って出してくれるという感動的なドラマが生まれました。また昨年は大連設計研究院の方々を金沢に迎えました。彼らは日本の建築技術に大きな興味を持っていました。案内した西田幾多郎記念館や、金沢21世紀美術館、津幡町文化ホールシグナスで質問攻めにあいました。近年中国では、大地震の勃発で建築の耐震性に大きな関心が寄せられているようです。また環境問題に無関心とみられがちですが、工「建築に関する質問は多く、決して無関心でないことがわかりました。日本が先んじているこのような分野での技術が中国の建築に生かされればという想いを抱いて、その実現に向けた交流を進めている途上です。この7月には3回目の訪問団を派遣することになっています。

大陸進出というほど大袈裟なものでもありませんが、日本海を挟んだ国々との交流には日本の閉塞感を吹き飛ばす大きなロマンを感じます。2014年の新幹線開業が北陸における大きな関心事ですが、それ以上に「環日本海時代」を迎え北陸こそ中心となる地域であるという意識を持って、さらに広い(ロシアやモンゴル、そして北朝鮮)交流を行っていきたくらい夢を持っています。

「スピード感+落ち着いた」が今後の目標



株式会社つくる 寺田 和儀さん 店舗を中心に家具や内装工事の営業をしています。

等でよく紹介される椅子の張替えのほかに新品も扱い、番組を見て電話をくださった一般の方も担当します。改装などでは新品が張替えか常に天秤にかけられる一方で、気に入った椅子を大切に使い続けたいという方もおられます。直接伺って素材を提案し、その場で値段を出せるのも七尾の工場の手配や外注の段取りをした経験のお陰。通勤は大変でしたが勉強になりました!

夏は野球で冬はスノボ。休日も会社でもジッとしていられない私の課題は「落ち着き」です。野球と同じく仕事もチームプレー、相手の気持ちになった言動を心がけていきます。

自分で手がけた商品を持って全国へ



株式会社たなかや 前田 光紀さん 2年前にリネンサプライ関連商品の営業からニットアパレル課へ異動になって、扱う商品もシーツや介護用品からスポーツウエアへ。営業先も商売のスタイルも全く違いますし、メーカーとしてデザインから手がけなければなりません。入社16年といっても、まだまだこれからです。

もともと子ども用ウエアがメインだった当社にとって、近年の少子化は非常に厳しい局面ですが、今は大人用との割合は半々。生産を中国に移して価格を抑え、自分でデザインを工夫した商品を持って全国各地を飛び回っています。

うちのキラリンさん

問屋町にお勤めの元気な社員の方をご紹介します